

《担当者名》○竹生礼子 [take-r@hoku-i-ryo-u.ac.jp]
川添恵理子 [e-kawa@hoku-i-ryo-u.ac.jp]

【概要】

終末期の在宅療養者に対して、経過や時期に応じたニーズを把握し、エビデンスに基づいたキュアとケアを統合した実践方法を学ぶ。また緩和ケアによりQOLの向上および家族サポートに関するケアを学ぶ。
家族看護に関連する理論やモデルを踏まえ、終末期の在宅療養者の家族が抱える課題をアセスメントし在宅看護における家族支援の在り方を探求する。

【学修目標】

末期における、経過時期ごとの的確なニーズの把握、エビデンスに基づいたキュアとケアを統合した実践方法を学ぶ。また緩和ケアによるQOLの向上および家族サポートに関するケアを学ぶ。
2. 終末期の療養者の家族看護：家族看護に関連する理論やモデルを活用して、終末期の在宅療養者の家族に対するケア方法と、課題解決方法を提案する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	終末期にある療養者・家族の医療と生活(1)	在宅における終末期ケアの現状と課題	竹生 川添
2	終末期にある療養者・家族の医療と生活(2)	アドバンスケア・プランニングの在り方と今後 ・医療事前指示書 終末期の医療と生活に対する意思決定 医療事前指示書やアドバンスケア・プランニングの文献を集め、学生によりプレゼンテーションを行う。	竹生
3	終末期の諸段階	終末期の段階に合わせた療養者の理解 終末期の諸段階のとらえ方 病みの軌跡の理解 フレイル がんと非がんの終末期にある療養者の特徴とニーズ 該当するテーマに沿って、文献をまとめ、学生によりプレゼンテーションを行う。学生・教員・講師とで討論を行う。	竹生
4	がんの症状コントロール	がんの症状のアセスメント、検査、診断 がんの部位による症状 肺がん、乳がん、大腸がん、肝臓がん ほか 症状 疼痛、倦怠感、嘔気・嘔吐、食欲不振、呼吸困難感、浮腫・腹水 など 講師による講義	小西徹夫（特別講師） 竹生
5	終末期にある在宅療養者の症状と緩和	終末期にある療養者の身体状況と症状緩和・WHOの緩和医療ガイドラインの理解 ・がんの痛みの治療と緩和方法 ・非がんの療養者の苦痛緩和 ・療養者の経過と看取り 講師による講義、学生・教員とで討論を行う。	門脇睦子（特別講師） 竹生
6	在宅における終末期ケア(1)	終末期にある療養者の心理社会的課題とケア 該当するテーマに沿って、文献やガイドラインをまとめ、学生によりプレゼンテーションを行う。学生・教員・講師とで討論を行う。	門脇睦子（特別講師） 竹生
7	在宅における終末期ケア(2)	終末期にある療養者の具体的ケア方法と看取り 事例をまとめ、学生によりプレゼンテーションを行う。学生・教員・講師とで討論を行う。	竹生
8	在宅における終末期ケア(3)	終末期にある療養者に対する精神的ケア とらえた課題に対するケア方法を探る	竹生

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		該当するテーマに沿って、文献やガイドラインをまとめ、学生によりプレゼンテーションを行う。学生・教員・講師とで討論を行う。	
9	在宅における終末期ケア(4)	終末期にある療養者のスピリチュアルペインの理解とケア、死の受容過程 ・田村 恵子他編：看護に活かすスピリチュアルケアの手引き から スピリチュアルケアの実践方法を考察する ・療養者が体験するスピリチュアルペインを理解する 該当するテーマに沿って、文献やガイドラインをまとめ、学生によりプレゼンテーションを行う。学生・教員・講師とで討論を行う。	竹生
10	終末期にある療養者の家族看護(1)	終末期の段階に合わせた家族の悲嘆の理解とケア 平山正実氏の4段階説：悲嘆のプロセス4段階 アルフォンス・デーケン：悲嘆のプロセス12段階 他 家族の悲嘆のプロセスから、支援の方法を提案する。 文献をまとめ、学生によりプレゼンテーションを行う。	竹生
11	終末期にある療養者の家族看護(2)	終末期にある療養者の家族が遭遇する課題の理解(1) 身体的、精神的課題 該当するテーマに沿って、文献やガイドラインをまとめ、学生によりプレゼンテーションを行う。学生・教員・講師とで討論を行う。	川村真澄（特別講師） 川添
12	終末期にある療養者の家族看護(3)	終末期にある療養者の家族が遭遇する課題の理解(2) 社会的課題 該当するテーマに沿って、文献やガイドラインをまとめ、学生によりプレゼンテーションを行う。学生・教員・講師とで討論を行う。	川村真澄（特別講師） 川添
13	終末期にある療養者の家族看護(4)	終末期の段階に合わせた療養者の家族のケアの実際(1) 家族が体験する具体的事例の課題を整理・理解する（カルガリー式家族アセスメントモデルを活用する） 事例をまとめ、学生によりプレゼンテーションを行う。	竹生 川添
14	終末期にある療養者の家族看護(5)	終末期の段階に合わせた療養者のケアの実際(2) ・9で取り上げた事例について、討論をする 発表した事例に沿って学生・教員・講師とで討論を行う。	竹生 川添
15	在宅終末期ケアにおけるキュアとケア	在宅におけるキュアとケアを統合した終末期ケアの実際とは 1~14の学修から、重要となるポイントについてディスカッションする。	竹生 川添

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業への準備状況（30%）、プレゼンテーション（30%）・課題レポート（10%）、討論への参加（30%）

【教科書】

特に指定なし。適宜資料を配布する。

【参考書】

アルフォンス・デーケン(著)：よく生き よく笑い よき死と出会う。新潮社。2003。

エリザベス キューブラー・ロス(著),鈴木 晶(翻訳)：死ぬ瞬間 死とその過程について。中公文庫。2001。

スーディ神崎和代・竹生礼子他：医療事前指示書 私への医療・私の終末期はこうしてほしい。ナカニシヤ出版。2016。

ピエール ウグ(編集), Pierre Woog (原著), 黒江 ゆり子 (翻訳), 宝田 穂 (翻訳), 市橋 恵子 (翻訳): 慢性疾患の病みの軌跡
コービンとストラウスによる看護モデル. 医学書院. 1995 .
角田直枝(編集), 瀧本千春 (編集): がん疼痛ケアガイド (ベスト・プラクティスコレクション) . 2012.
広瀬 寛子 (著): 悲嘆とグリーフケア. 医学書院. 2011 .
坂口 幸弘(著): 死別の悲しみに向き合う グリーフケアとは何か. 講談社現代新書. 2012.
小此木 啓吾(著): 対象喪失 悲しむということ. 中公新書. 1979 .
森田 達也 (著): 死亡直前と看取りのエビデンス. 医学書院. 2015 .
長江 弘子 (編集): 看護実践にいかすエンド・オブ・ライフ・ケア . 日本看護協会出版会. 2014 .
田村 恵子(編集), 河 正子 (編集), 森田 達也 (編集): 看護に活かすスピリチュアルケアの手引き. 2012.
島内 節 (著), 内田陽子 (著): 在宅におけるエンド・オブ・ライフ・ケア:看護職が知っておくべき基礎知識. ミネルヴァ書房.
2015 .
日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会 (編集): 患者さんと家族のための がんの痛み治療ガイド . 金原出版. 2014.
武田 文和 (著): トワイクロス先生の緩和ケア処方薬 第2版: 薬効・薬理と薬の使い方. 医学書院. 2017 .
平山 正実 (著): 死別の悲しみを学ぶ (臨床死生学研究叢書). 聖学院大学出版会. 2012 .
鈴木 志津枝 (編集), 内布 敦子 (編集): 成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論. ヌーベルヒロカワ. 2011 .

【学修の準備】

テーマに沿って事前に自身の実践事例についてまとめておく。